

同乗する子どもの スポーク外傷を防ぐには？

同乗者は
6歳未満



幼児座席を
必ず使用

ドレスガードの使用

足乗せ部に足を置く

⚠ 6歳以上の同乗は
道路交通規則違反

⚠ 幼児座席を使用しても
6歳以上の子どもは
巻き込まれる危険性が高い



9歳児の幼児座席使用例

⚠ 幼児座席取り付けの注意点

- 取り付け可能な自転車であるか確認しましょう
- 適合する質量別クラスの荷台であるか確認しましょう
- 両立スタンドを装備しましょう
- 取扱説明書を確認しましょう
- 破損や変形が疑われる幼児座席の使用は控えましょう

詳しくは自転車販売店で確認・点検を！

このほか 万が一の転倒に備えて…

座席ベルト ヘルメット を着用しましょう。

● 幼児座席の基準

6歳未満の幼児を乗せる座席のSG基準^{※3}では、足を車輪に巻き込まれないように前後や内側への移動を足乗せ部で制限し、足を車輪から離すようになっています。

※3：一般財団法人 製品安全協会が定めるSG認定基準「自転車用幼児座席のSG基準(CPSA0070)」

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL：042-758-3165 ● 2016年 11月発行

イラスト：川崎 敏郎

くらしの危険 Number 334

スポーク外傷

自転車に乗せた子どもの足が 車輪に巻き込まれる事故に注意

回転中の車輪のスポークに足が巻き込まれて受傷する、いわゆる「スポーク外傷」。自転車の後ろの幼児座席、あるいは直接荷台に乗っている人の足が、後車輪に巻き込まれることで発生します。



自転車の車輪のスポーク



スポーク外傷は子どもが受傷者となるケースが多く、大きなけがを負う可能性があります。また、幼児座席を使用しないとスポーク外傷の危険性が高くなることが分かりました。

6歳未満の子どもを自転車に同乗させる場合には必ず幼児座席を使用し、6歳以上の子どもの同乗はスポーク外傷を負う危険性が高いので絶対にやめましょう。

● 道路交通規則 — 幼児座席に乗車できるのは6歳未満です

道路交通規則では、16歳以上の運転者が、幼児座席を設けた自転車に6歳未満の幼児を1人に限り乗車させることができます。また、幼児2人同乗用自転車では6歳未満の幼児2人を幼児座席に乗車させることができます。

医療機関ネットワーク※1 に寄せられたスポーク外傷事例

※1: 消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始しました。

医療機関ネットワークには、スポーク外傷の事例が過去5年間で172件※2見られ、2012年度以降、30件近くで推移しています。

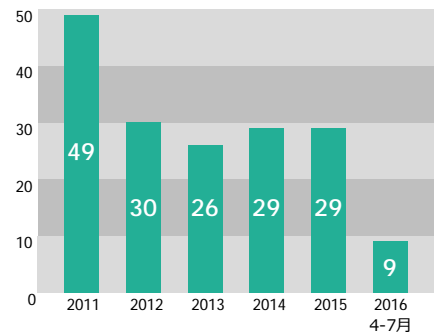


図1: 年度別件数

※2: 2011年4月から2016年7月31日までの伝送分で、件数は、本公表のために特別に事例を精査したものです。

1 幼児座席を使用していなかった事例

ケース 1

父のこぐ自転車の荷台に乗っていて、自転車の後輪のスポークに左下肢がはまり込んだ。左足関節後面に直径4cm、深さ2cmの裂創があり、救急外来受診。真皮、表皮を縫合した。(5歳 女児)

ケース 2

父が運転する自転車の荷台に子どもがまたがっていた。少しの距離だったので幼児座席なしの自転車に乗せてしまった。子どもの左足がスポークに挟まってしまい受傷。子どもは裸足に草履を履いていた。アキレス腱根部より左右扇状の裂創。腱が見えるような深い挫創。12針縫合。(5歳 男児)



2 幼児座席の使用状況に問題があった事例

ケース 3

母親が運転する自転車の後ろに乗って買い物に向かう際に、左足が自転車の後輪に挟まり受傷。自転車の後ろには幼児座席を設置していたが、足を置くところに子どもが足をきちんと置いていなかった。左足関節に擦過傷あり。(4歳 男児)

ケース 4

足置きが壊れている幼児座席に乗せて、走行中に左足は自転車の金具に置いていたが、足がずれ落ち、後輪に踵が挟まれた。左踵裂創、左足関節捻挫、左下腿挫創、皮下血腫。(7歳 女児)

巻き込みの再現実験

荷台に座らせたダミー人形(5-6歳相当)



ドレスガードの例

一般消費者 2,000人にアンケート調査を行いました

●調査対象: 現在子どもを自転車に乗せることがある、及び過去約3年間に子どもを自転車に乗せたことがある全国の20歳以上70歳未満の男女
●調査期間: 平成28年7月 ●実施方法: インターネット ●対象人数: 47都道府県の自転車保有台数を参考に割り付けた2,000人

巻き込まれた同乗者は6歳以上が半数以上

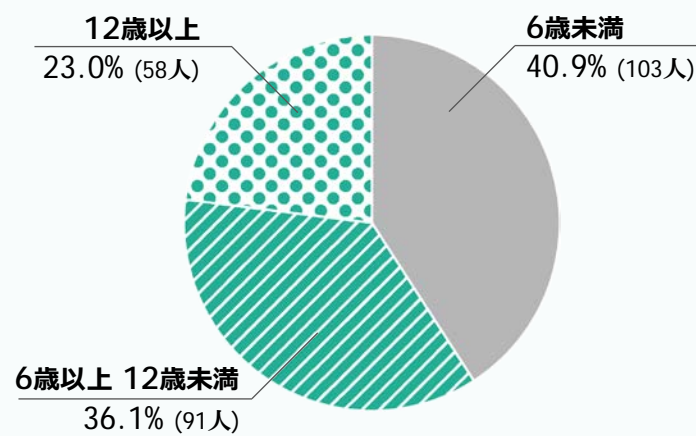


図2: 巻き込まれた同乗者の年齢別別件数 (n=252)

完治までの期間は6割近くが1週間以上

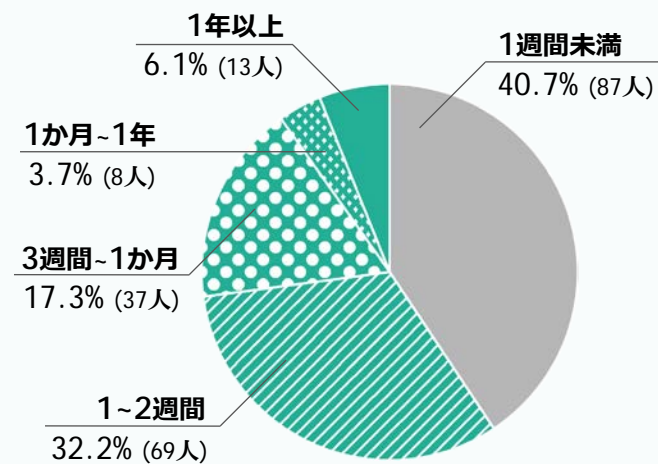


図3: 完治までの期間別件数 (n=214)

巻き込まれたことがある人では幼児座席の使用割合が低い ドレスガードの装着割合が低い

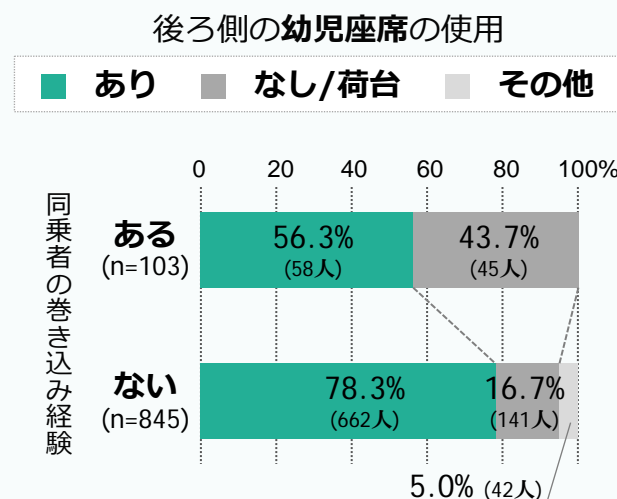


図4: 後ろ側幼児座席の使用割合

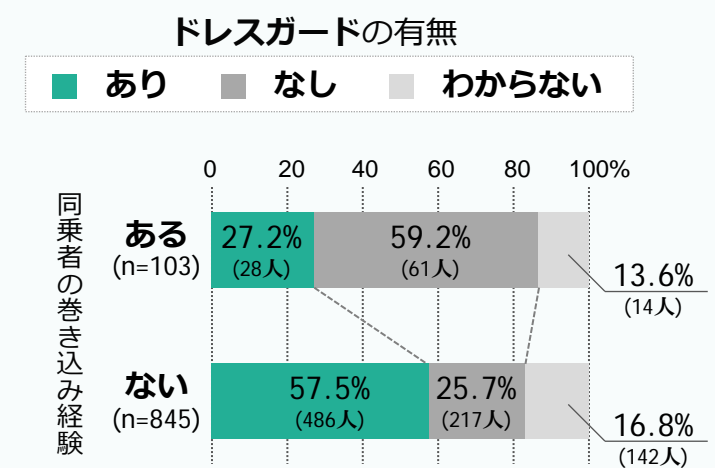


図5: ドレスガードの装着割合